

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2018年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期見通し

2017年11月8日

オリンパス株式会社

取締役副社長執行役員 CFO

竹内 康雄

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

IFRS任意適用について

- 当社グループは2018年3月期第1四半期連結累計期間の連結財務諸表より、国際財務報告基準（“IFRS”）を任意適用しています。
- 比較分析のため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度の連結財務諸表につきましてもIFRSに準拠して表示しています。

上期実績

- 前年同期比： 増収増益を達成（売上高+6%、営業利益+6%、当期利益+26%）
- 期初見通し比： 為替の円安を追い風に、売上高および各段階利益は計画を上回って推移

通期見通し

- 前期比： 増収増益の見通し（売上高+6%、営業利益+21%、当期利益+40%）
- 期初見通し比： 主にユーロの為替前提を見直し、売上高および各段階利益の見通しを上方修正

2018年3月期 第2四半期 連結業績および事業概況

2018年3月期 第2四半期実績 ①連結業績

- ① 前年同期比 : 売上高は前年同期比6%増収、営業利益は同6%増益、当期利益は同26%増益
- ② 業績見通し比 : 為替の円安を追い風に、売上高・営業利益ともに見通しを上回る進捗

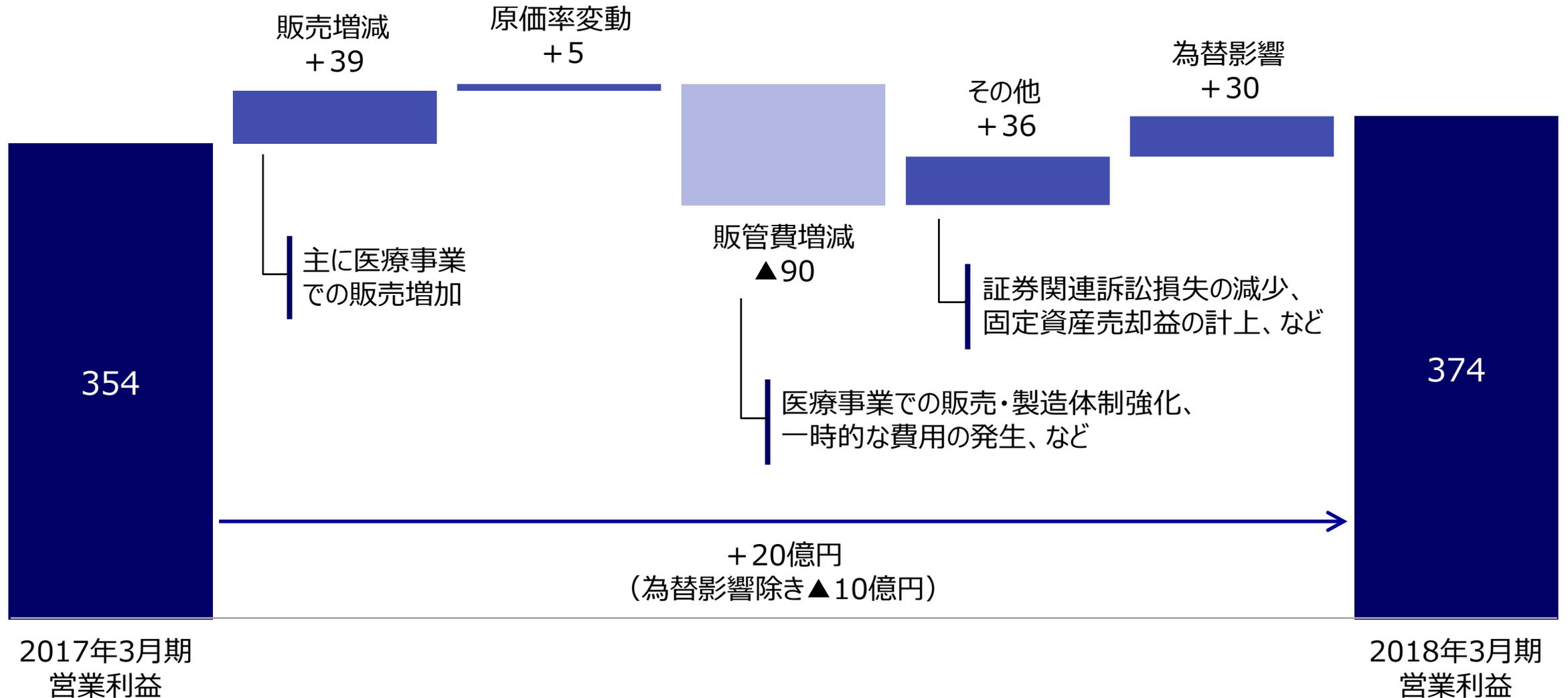
第2四半期累計実績 (4-9月)

(単位：億円)

	2017年3月期	2018年3月期	前年同期比	為替影響 調整後	2018年3月期 8月8日公表見通し
売上高	3,487	3,694	+6%	+1%	3,660
売上総利益 (売上総利益率)	2,276 (65.3%)	2,418 (65.4%)	+6%	+2%	2,460 (67.2%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	1,877 (53.8%)	2,035 (55.1%)	+8%	+5%	2,080 (56.8%)
その他の収益および費用等	▲45	▲8	-	-	▲30
営業利益 (営業利益率)	354 (10.2%)	374 (10.1%)	+6%	▲3%	350 (9.6%)
税引前利益 (税引前利益率)	311 (8.9%)	352 (9.5%)	+13%		320 (8.7%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	236 (6.8%)	298 (8.1%)	+26%		270 (7.4%)
円/USD	105円	111円	+6円 (円安)		110円
円/Euro	118円	126円	+8円 (円安)		115円

2018年3月期 第2四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第2四半期累計実績（4-9月）



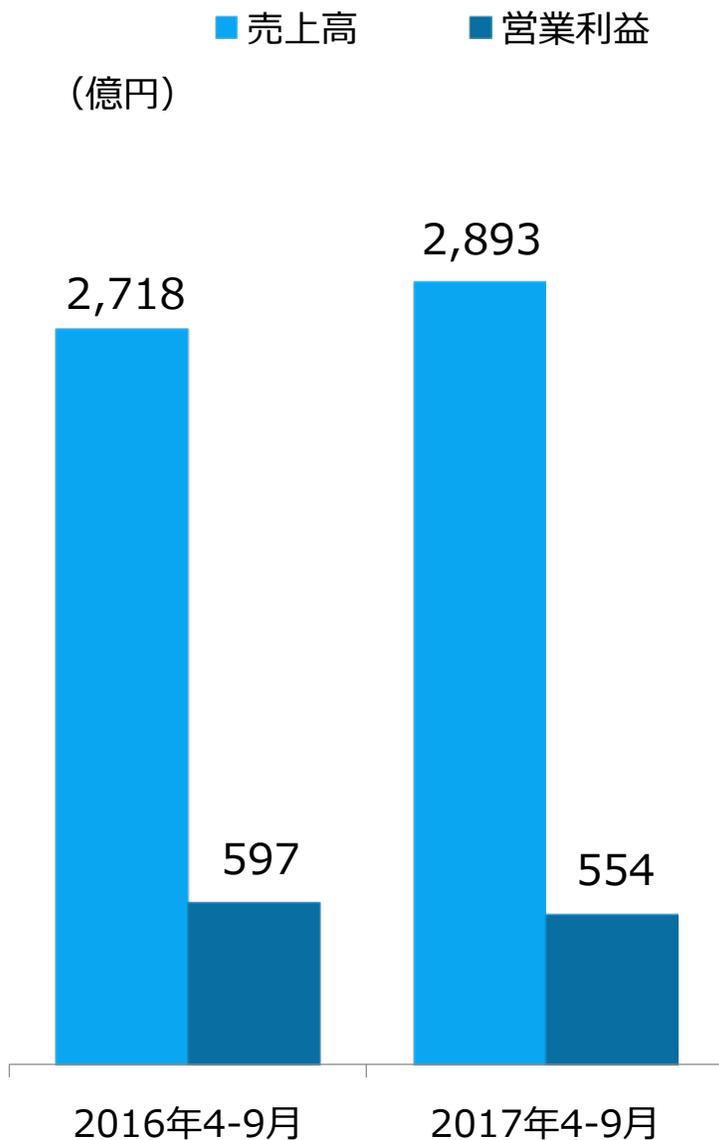
2018年3月期 第2四半期実績 ②セグメント別概況

- ① 医療事業は前年同期比6%増収と全社業績を牽引。営業利益は同7%減益
- ② 科学・映像事業は増収、損益改善。前年上期の営業損失は黒字に転換

第2四半期累計実績（4-9月）

(単位：億円)		2017年3月期	2018年3月期	前年同期比	為替影響 調整後	2018年3月期 8月8日公表見通し
			①			
医療	売上高	2,718	2,893	+6%	+2%	2,840
	営業利益	597	554	▲7%	▲12%	550
科学	売上高	404	446	+10%	+6%	460
	営業利益	▲2	13	+15億円	+12億円	30
映像	売上高	285	306	+7%	+3%	310
	営業利益	▲14	16	+30億円	+29億円	10
その他	売上高	81	50	▲38%	▲39%	50
	営業利益	▲22	▲12	+10億円	+10億円	▲20
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲205	▲197	+9億円	+8億円	▲220
連結合計	売上高	3,487	3,694	+6%	+1%	3,660
	営業利益	354	374	+6%	▲3%	350

2018年3月期 第2四半期実績 ③医療事業



(単位：億円)	2Q (7-9月)				累計 (4-9月)			
	2016年 7-9月	2017年 7-9月	前年 同期比	為替影響 調整後	2016年 4-9月	2017年 4-9月	前年 同期比	為替影響 調整後
売上高	1,410	1,548	+10%	+2%	2,718	2,893	+6%	+2%
内視鏡	799	837	+5%	▲2%	1,526	1,565	+3%	▲1%
外科	444	512	+15%	+7%	853	941	+10%	+5%
処置具	167	199	+19%	+8%	338	387	+14%	+8%
営業利益	343	322	▲6%	▲11%	597	554	▲7%	▲12%
営業利益率	24.4%	20.8%		21.4%	22.0%	19.1%		19.1%

売上高

営業利益

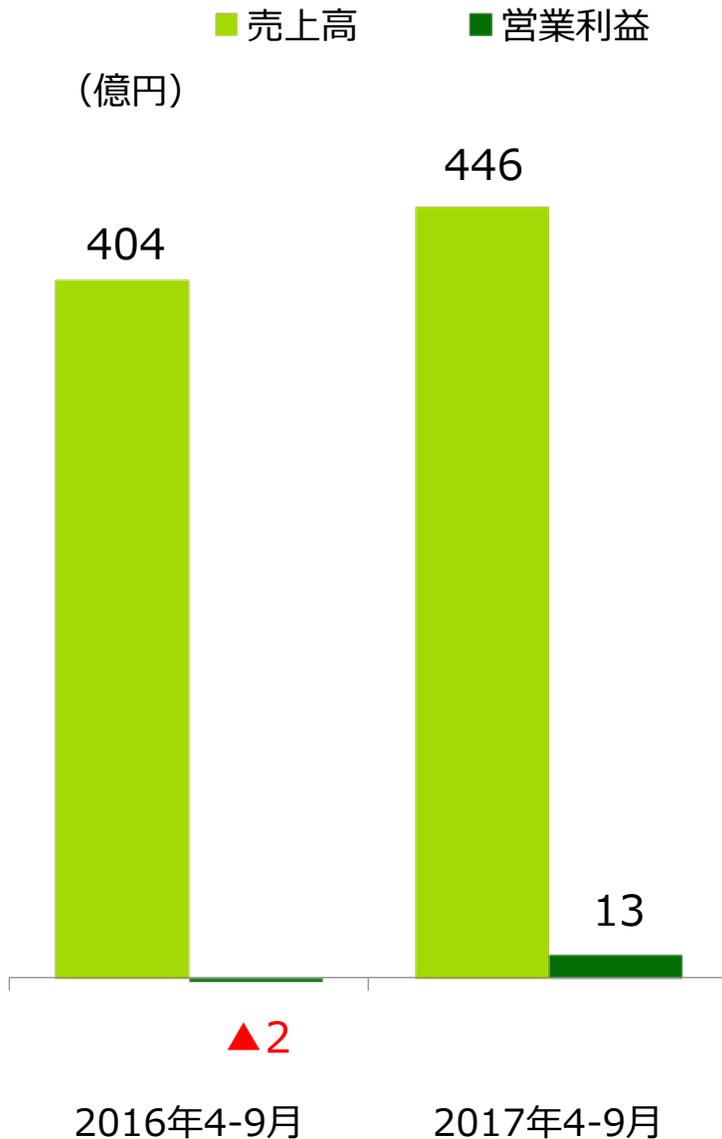
- ✓ 内視鏡：主力システムがプロダクトサイクル後半（実質マイナス成長）
- ✓ 外科：外科内視鏡の新製品「VISERA ELITE II」が欧州を中心に好調
- ✓ 処置具：全地域で順調、特にERCPや呼吸器関連製品の販売が堅調
- ✓ プロダクトミックスの変化(内視鏡分野の売上割合が低下)により粗利率が低下
- ✓ サービス・販売体制の強化等の費用支出により販管費が増加

2018年3月期 第2四半期実績 ③医療事業

分野	地域	現地通貨別成長率 (%)			分野別の状況
		2017/3		2018/3	
		上期	下期	上期	
消化器 内視鏡	日本	▲1%	▲2%	▲2%	<ul style="list-style-type: none"> 先進国は、製品サイクル後半 日本は新スコープ導入前、北米は一部大型商談の下期へズレた影響、欧州は前年が高成長等で、マイナス成長 中国を中心に、アジア・オセアニア地域が堅調
	北米	▲2%	+1%	▲3%	
	欧州	+6%	+6%	▲7%	
	豪亜	+19%	+18%	+8%	
	全地域	+3%	+4%	▲1%	
外科	日本	0%	▲4%	+4%	<ul style="list-style-type: none"> 欧州とアジア・オセアニアが堅調。特に、欧州は先行して投入した新製品「VISERA ELITE II」が好調 北米は、主力製品がサイクル後半の中で、4K外科内視鏡が順調に推移し、前年並を確保
	北米	+3%	+1%	0%	
	欧州	0%	+20%	+10%	
	豪亜	+10%	+10%	+17%	
	全地域	+3%	+5%	+5%	
処置具	日本	+9%	+5%	+8%	<ul style="list-style-type: none"> 中国を中心に、アジア・オセアニアが特に堅調 全体的に、ERCP*や呼吸器関連の製品が好調
	北米	+13%	+7%	+3%	
	欧州	+7%	+6%	+1%	
	豪亜	+8%	+11%	+21%	
	全地域	+8%	+6%	+8%	

*ERCP：内視鏡的逆行性胆管膵管造影

2018年3月期 第2四半期実績 ④科学事業



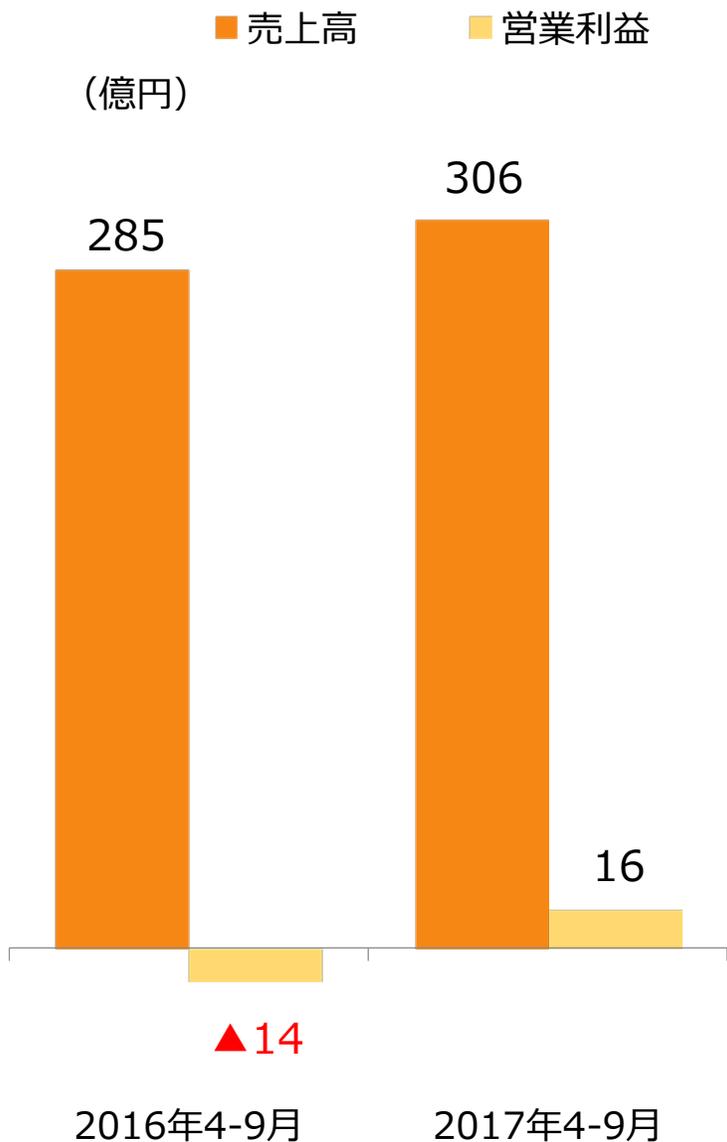
(単位：億円)	2Q (7-9月)				累計 (4-9月)			
	2016年 7-9月	2017年 7-9月	前年 同期比	為替影響 調整後	2016年 4-9月	2017年 4-9月	前年 同期比	為替影響 調整後
売上高	218	246	+13%	+5%	404	446	+10%	+6%
営業利益	9	18	+112%	+102%	▲2	13	+15億円	+12億円
営業利益率	4.0%	7.5%		7.7%	-	2.8%		2.4%

売上高

営業利益

- ✓ 資源価格の底入れおよび、昨年投入した新製品等が寄与し、海外を中心に産業分野が増収を牽引。国内では生物顕微鏡が順調
 - ・北米：非破壊検査機器が好調
 - ・欧州：X線分析装置で大口受注を獲得
 - ・中国：スマホ用電子部品検査向けの工業用顕微鏡等の販売が好調
- ✓ 増収効果に加え、業務の効率化や費用の適正化により損益が改善
- ✓ 前年上期の営業損失は黒字に転換（前年同期比で15億円の増益）

2018年3月期 第2四半期実績 ⑤映像事業



(単位：億円)	2Q (7-9月)				累計 (4-9月)			
	2016年 7-9月	2017年 7-9月	前年 同期比	為替影響 調整後	2016年 4-9月	2017年 4-9月	前年 同期比	為替影響 調整後
売上高	132	154	+17%	+8%	285	306	+7%	+3%
ミラーレス	93	117	+25%	+17%	195	233	+19%	+15%
コンパクト	26	24	▲6%	▲13%	62	47	▲24%	▲27%
その他	14	14	▲1%	▲7%	28	26	▲7%	▲10%
営業利益	▲11	7	+18億円	+16億円	▲14	16	+30億円	+29億円
営業利益率	-	4.7%		4.0%	-	5.3%		5.4%

売上高

営業利益

- ✓ OM-Dシリーズを中心にミラーレス分野が19%増収と好調に推移し、コンパクトカメラが大幅減収となる中で映像事業全体で増収を達成
- ✓ 収益性の高い高価格帯のミラーレス一眼の販売構成比が増えたことに加え、販促活動、研究開発等の適正なコントロールにより収益性が大きく改善
- ✓ 前年上期の営業損失は黒字に転換し、5.3%の営業利益率を確保（前年同期比で30億円の増益）

財政状態計算書

- 資本 : 当期利益298億円の計上により利益剰余金が増加
- 自己資本比率 : 利益剰余金が増加したことで44.2%に改善

(単位：億円)	2017年 3月末	2017年 9月末	増減額
流動資産	5,057	4,992	▲65
棚卸資産	1,253	1,428	+175
非流動資産	4,543	4,727	+184
有形固定資産	1,597	1,679	+82
無形資産	759	785	+26
のれん	956	1,029	+74
資産 合計	9,600	9,719	+119

	2017年 3月末	2017年 9月末	増減額
流動負債	2,865	3,004	+139
社債及び借入金	688	896	+208
非流動負債	2,774	2,409	▲365
社債及び借入金	2,172	1,729	▲442
資本	3,962	4,306	+344
自己資本比率	41.1%	44.2%	+3.0pt
負債及び資本 合計	9,600	9,719	+119

有利子負債：2,626億円（2017年3月末比▲234億円）

連結キャッシュフロー計算書

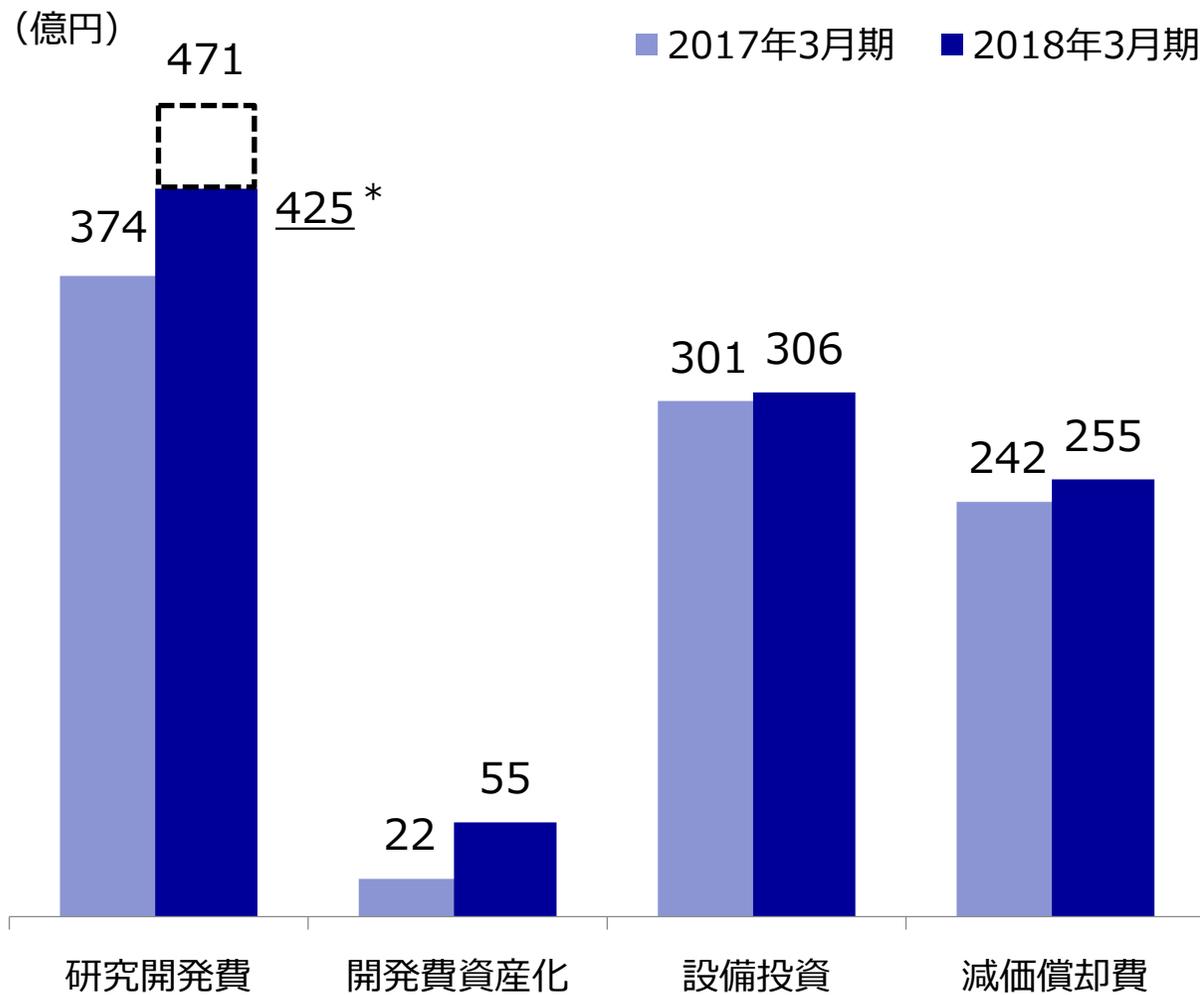
- FCF： ISM社*買収により87億円支出した一方で、土地建物売却などによる収入により、プラスの129億円
- 財務CF： 公募債としては21年ぶりとなる社債発行（100億円）

第2四半期累計実績

(単位：億円)	2017年3月期	2018年3月期	増減
売上高	3,487	3,694	+207
営業利益	354	374	+20
営業利益率	10.2%	10.1%	▲0.1pt
営業キャッシュフロー	421	426	+5
投資キャッシュフロー	▲345	▲297	+47
フリーキャッシュフロー	76	129	+53
財務キャッシュフロー	▲232	▲347	▲115
現金及び現金同等物期末残高	1,387	1,813	+426
減価償却費	242	255	+13
設備投資額	301	306	+5

投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

第2四半期累計実績（4-9月）



*全子会社で親会社と同様の発生基準に統一したベース

当期の主な研究開発成果



VISERA ELITE II 対応
外科手術用3D内視鏡



超拡大内視鏡「Endocyto」



4K 3Dビデオ技術搭載の
手術用顕微鏡システム
「ORBEYE」

当期の主な設備投資



Olympus Korea Medical Training
& Education Center



Olympus NDT Canada
(new office and manufacturing complex)

2018年3月期 通期業績見通し

通期見通し ①連結業績

- 主にユーロの為替前提を見直し、売上高および各段階利益を上方修正
- 為替影響を除き、前回公表数値をほぼ据え置き

(単位：億円)

	2018年3月期 8月8日公表見通し	2018年3月期 (最新見通し)	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	2017年3月期
売上高	7,660	7,840	+180	+2%	0%	7,406
売上総利益 (売上総利益率)	5,050 (65.9%)	5,180 (66.1%)	+130	+3%	0%	4,785 (64.6%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,210 (55.0%)	4,270 (54.5%)	+60	+1%	0%	3,977 (53.7%)
その他の収益および費用等	▲50	▲50	-	-	-	▲96
営業利益 (営業利益率)	790 (10.3%)	860 (11.0%)	+70	+9%	0%	712 (9.6%)
税引前利益 (税引前利益率)	720 (9.4%)	790 (10.2%)	+70	+11%		625 (8.4%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	550 (7.2%)	600 (7.7%)	+50	+9%		428 (5.8%)
EPS	161円	175円				
円/USドル	110円	111円	+1円(円安)			
円/Euro	115円	126円	+11円(円安)			

2018年3月期年間配当

期末配当28円を予定
(変更なし)

OLYMPUS

通期見通し ②セグメント別業績

- 為替前提の見直しにより、医療事業を中心に売上高、営業利益を上方修正
- 為替影響を除く実質では、主力の医療事業は前回見通しを据え置き

(単位：億円)		2018年3月期 8月8日公表見通し	2018年3月期 最新見通し	増減額	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比
医療	売上高	5,980	6,130	+150	+3%	0%
	営業利益	1,230	1,300	+70	+6%	0%
科学	売上高	950	970	+20	+2%	0%
	営業利益	60	60	-	0%	▲12%
映像	売上高	640	650	+10	+2%	▲2%
	営業利益	10	20	+10	+100%	+13%
その他	売上高	90	90	-	-	▲1%
	営業利益	▲60	▲60	-	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲450	▲460	▲10	-	-
合計	売上高	7,660	7,840	+180	+2%	0%
	営業利益	790	860	+70	+9%	0%

下期見通し セグメント別（前年同期比）

■ 下期の見通しは、医療事業が増収増益を牽引

(単位：億円)		2017年3月期 10月-3月	2018年3月期 10月-3月見通し	前年同期比	為替影響 調整後	2018年3月期 8月8日公表見通し
医療	売上高	2,986	3,237	+8%	+7%	3,140
	営業利益	550	746	+36%	+28%	680
科学	売上高	530	524	▲1%	▲2%	490
	営業利益	61	47	▲23%	▲35%	30
映像	売上高	343	344	0%	▲2%	330
	営業利益	15	4	▲73%	▲18億円	-
その他	売上高	59	40	▲32%	▲33%	40
	営業利益	11	▲48	▲59億円	▲59億円	▲40
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲279	▲263	+16億円	+22億円	▲230
合計	売上高	3,918	4,146	+6%	+4%	4,000
	営業利益	358	486	+35%	+21%	440

OLYMPUS

Appendix

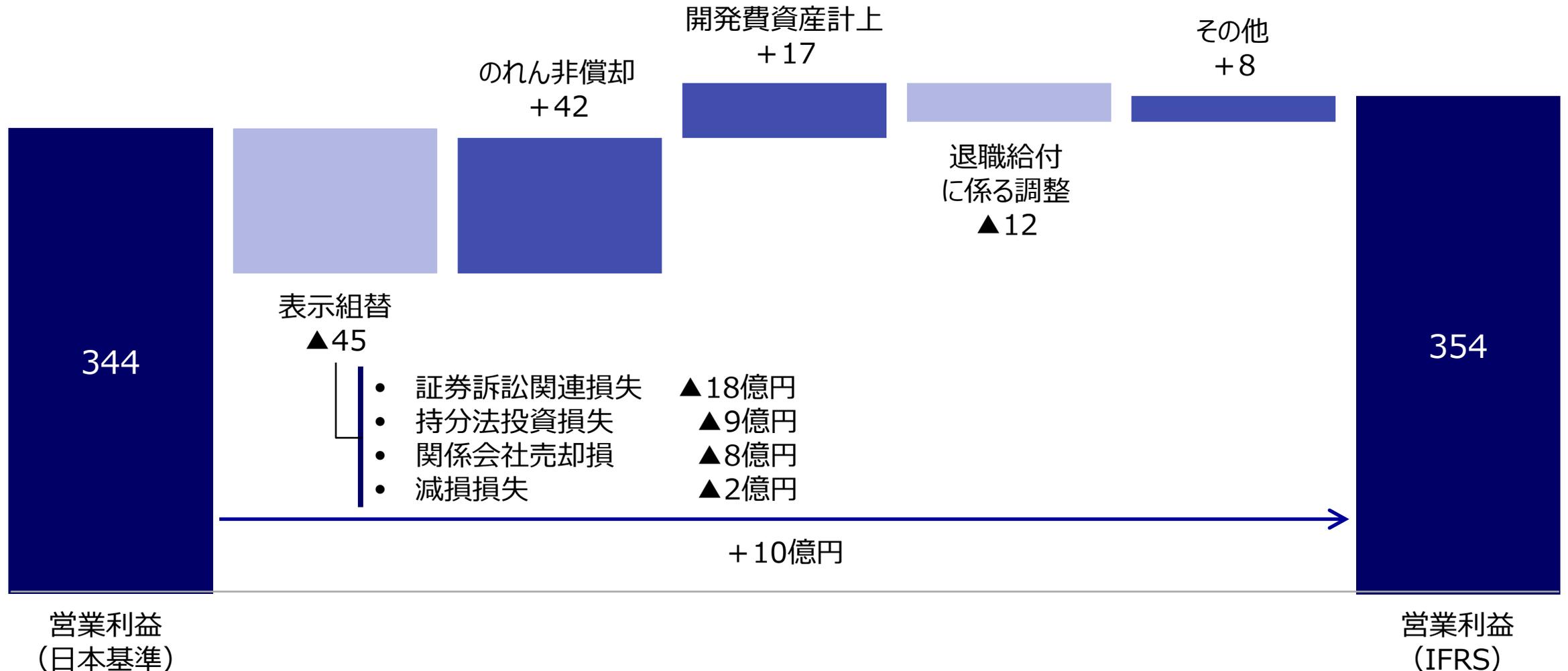
【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 第2四半期 ①連結業績

第2四半期累計実績 (4-9月)

(単位：億円)	2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	差異
売上高	3,500	3,487	▲13
営業利益	344	354	+11
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	261	311	+51
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	222	236	+14

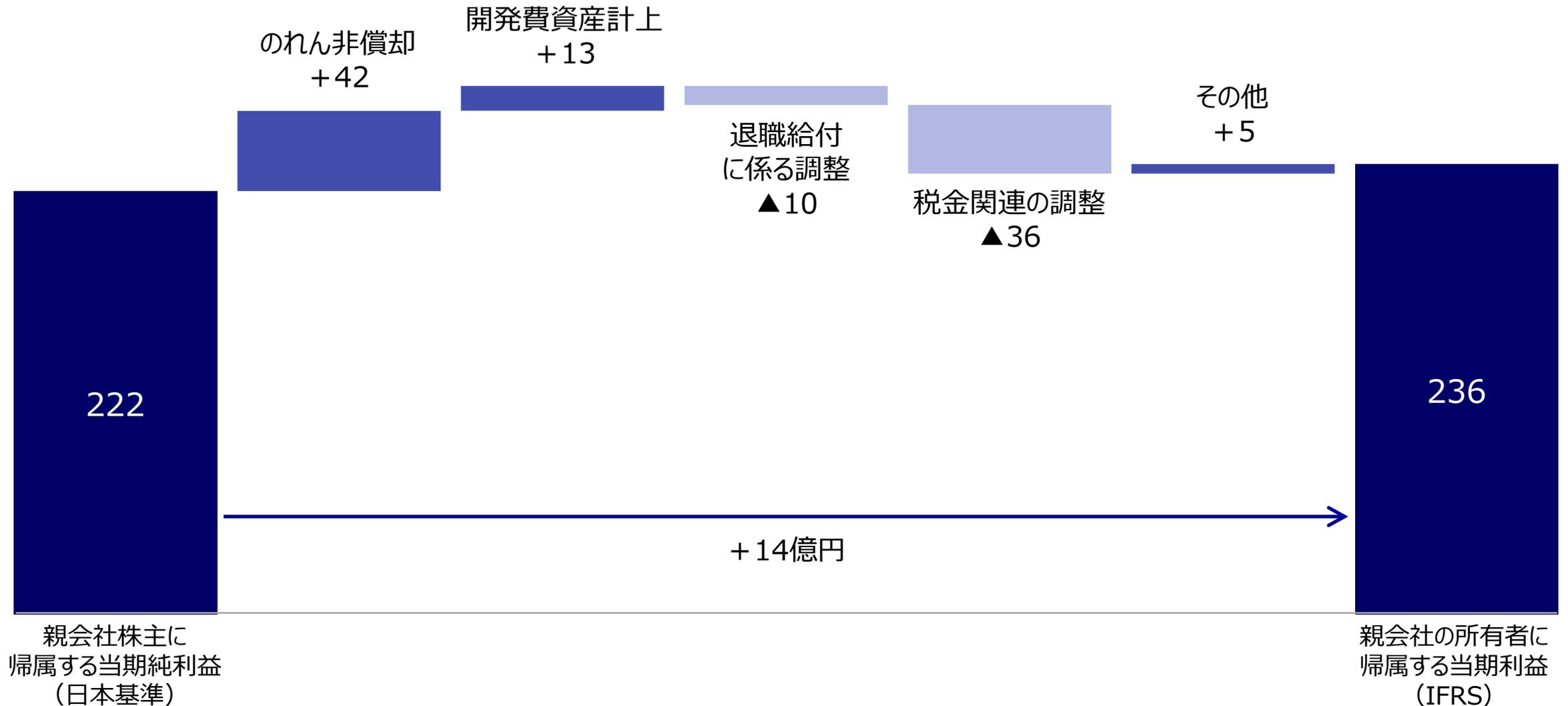
【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 第2四半期 ②営業利益増減分析

第2四半期累計実績（4-9月）



【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 第2四半期 ③当期利益増減分析

第2四半期累計実績（4-9月）



【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 第2四半期 ④セグメント別業績

第2四半期累計実績（4-9月）

(単位：億円)		2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	差異
医療	売上高	2,718	2,718	▲1
	営業利益	566	597	+31
科学	売上高	402	404	+2
	営業利益	▲6	▲2	+5
映像	売上高	298	285	▲13
	営業利益	▲14	▲14	+1
その他	売上高	82	81	▲1
	営業利益	▲20	▲22	▲2
全社・消去	売上高	-	-	-
	営業利益	▲182	▲205	▲23
連結合計	売上高	3,500	3,487	▲13
	営業利益	344	354	+11

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ①連結業績

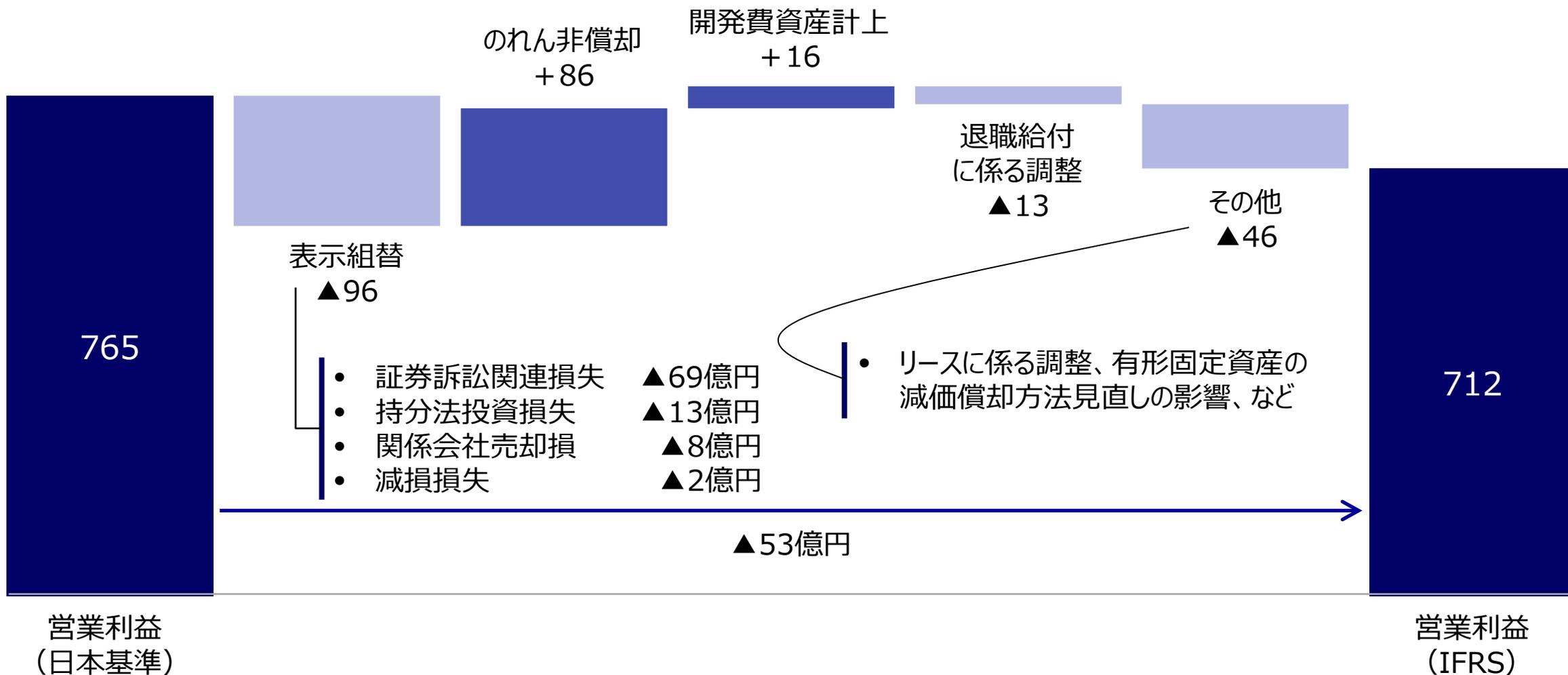
通期実績 (4-3月)

(単位：億円)

	2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	差異
売上高	7,481	7,406	▲75
営業利益	765	712	▲53
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	817	625	▲192
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	782	428	▲354

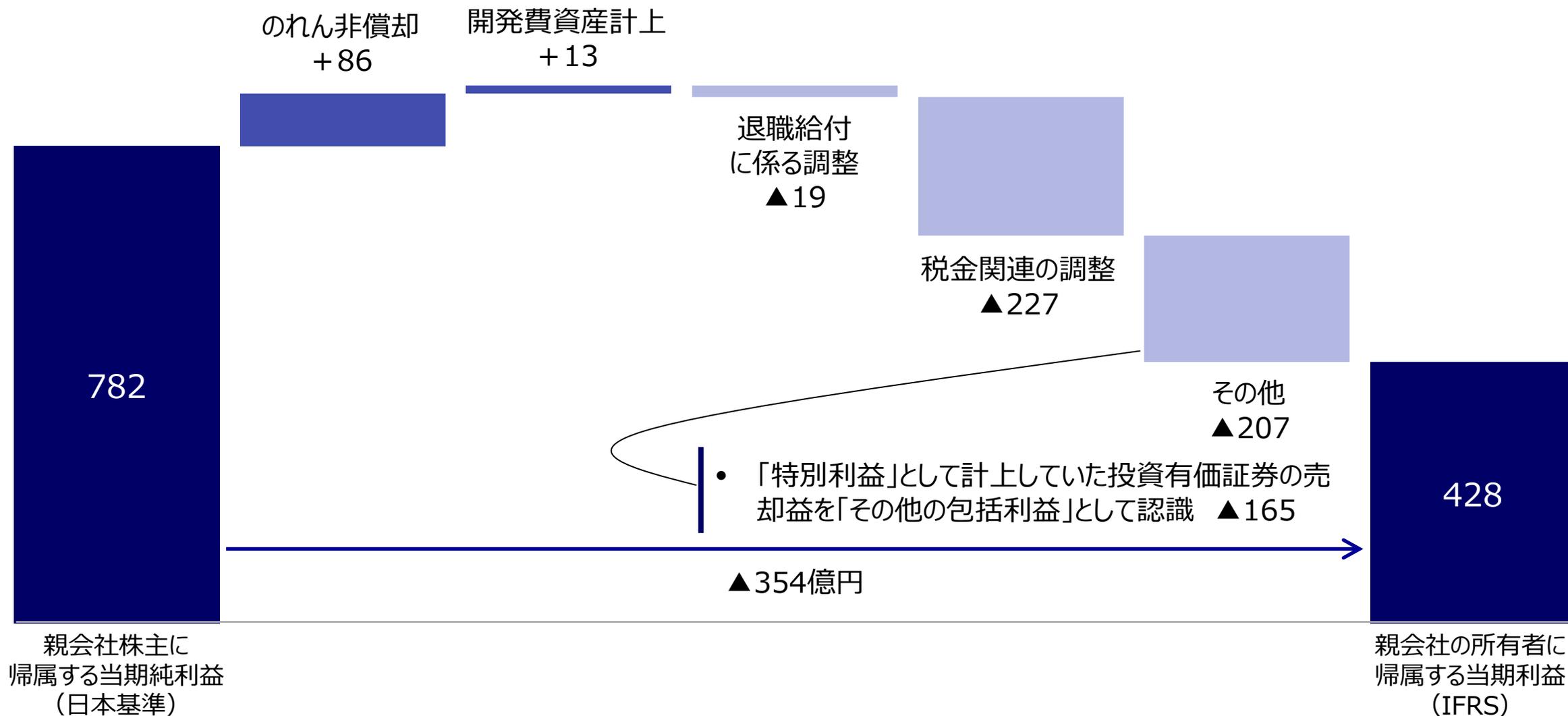
【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ②営業利益増減分析

通期実績（4-3月）



【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 通期 ③当期利益増減分析

通期実績（4-3月）



【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 通期 ④セグメント別業績

通期実績 (4-3月)

(単位：億円)		通期実績 (4-3月)		差異
		2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	
医療	売上高	5,753	5,704	▲49
	営業利益	1,155	1,147	▲8
科学	売上高	932	934	+2
	営業利益	53	59	+6
映像	売上高	656	628	▲28
	営業利益	5	2	▲3
その他	売上高	140	140	0
	営業利益	▲46	▲11	+35
全社・消去	売上高	-	-	-
	営業利益	▲402	▲485	▲83
連結合計	売上高	7,481	7,406	▲75
	営業利益	765	712	▲53